熊本大学教育学部紀要
第67号, 251－258, 2018

小学校における手縫い技能の指導に関する検討

── 被服製作に関する意識と行動の実態 ──

宮瀬美津子・松永　ゆか*

A study on teaching hand sewing skills at elementary school: Consciousness and influence on clothing production

Mitsuko Miyase and Yuka Matsunaga*

（Received September 28, 2018）

1. はじめに

現在，小学校で行う被服製作実習を取り巻く環境は大きく変わりつつある．衣服を安価で購入することができるようになったことで，児童は，補修を行って着ることや，自分で布を使って製作するという機会が減少している．日ごろより裁縫をしない児童に被服製作指導をすることは大変難しい状況である．

高木（2005）は，「縫う」ことの学習意義として，「1．生活の自立に必要な技能の修得ができる．2．裁縫文化を維持・発展できる．3．地域の人や環境との共生のための実践力を身につけることができる．」の3点を挙げている．また，「生産者が提供する衣服や生活用品は画一化されたものが多く，消費者の欲求に必ずしも合致するものとは限らない．したがって，衣服の簡単な手直しや補修，好みや個性を生かしたアレンジ，装飾品をつくる力量を身につけるということは有意義である．」と述べている．

日本繊維機械学会の2011年の調査によると，衣類に目立つ穴があいた場合は，高価な衣類の場合は「ショップでなおす」が最も多かったのに対し，安価な衣類の場合は「ごみで捨てる」が最も多かった．さらに，体型が変わってサイズがあわなくなった場合には，高価な衣類の場合は「知人にゆずる」が最も多いが，安価な衣類の場合は，やはり「ごみで捨てる」が最も多かった．しかし，リサイクル率に関しては，瓶・缶が85～90％，紙が60％以上であるのに対し，衣料品は11.3％であり，リユース率，リペア率を合わせても26.3％で，衣類のリサイクルはあまり進んでいないことが分かる．このような状況だからこそ，補修技術を身につけることは，「ごみ」となる衣服を減らすことができ，環境保全にもつながる．

以上のことから，今日の小学校の家庭科の授業においても被服製作実習を行い，裁縫技術の基礎・基本を児童に教える必要があると考える．特に手縫いは，ミシン縫いに比べ用具が少なくて済み，すぐに製作や補修を行うことができるため，その技術を身につけておくことが日常生活において有用である．

一方，小学校家庭科の授業時間数は，平成元年告示の学習指導要領までは，5･6年生ともに年間70時間であったが，平成10年告示の学習指導要領以降，5年生60時間，6年生55時間と，全体で25時間の削減となっている．その中で，被服製作実習を行うことができる時間は限られており，ミシン縫いでの製作も行わなければならないので，児童に手縫いの技術を定着させることは非常に難しいと考えられる．

そこで，本研究では，少ない指導時間でも手縫いの技能を定着させる指導方法を検討することを目的として，児童の被服製作に関する意識と行動及び技能の実態調査を行った．本報では，意識と行動に関する質問紙調査の結果について報告する．

2. 方法

熊本市立A小学校5年生41名，6年生34名，計75名を対象に，2013年9月6日にアンケート調査を行った．調査項目は，（1）手縫いに関する興味･関心･意欲について7項目，（2）手縫いの技能に関する自信について6項目，（3）日常生活での体験について3項目である．6年生に関しては，2013年9月27日に授業実践後のアンケート調査を実施した．項目は上記（1）（2）と同じ項目に加え，（3）授業で頑張ったところ･難しかったところ2項目と製作後の感想である．アンケートは，著者らが児童に直接質問紙を配布し，その場で答えてもらい回収した．

*高森東学園義務教育学校

表 1　題材の指導計画

<table>
<tr><th>授業時数</th><th>日付</th><th>授業者</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>1</td><td>9 月 9 日
（実地授業Ⅰ）</td><td>T1: 松永
T2: 学級担任</td><td>◯事前実技テスト</td></tr>
<tr><td>2</td><td>9 月 10 日
（実地授業Ⅱ）</td><td>T1: 松永
T2: 学級担任</td><td>◯エプロン製作の説明
◯刺し子の練習</td></tr>
<tr><td colspan="4">18 日までの宿題として，ポケットに縫いとりをする際の絵柄を考えてもらう。</td></tr>
<tr><td>3
4</td><td>9 月 18 日
（実地授業Ⅲ）</td><td>T1: 松永
T2: 学級担任</td><td>◯ポケット布にチャコペーパーでデザインを描く
◯刺し子で縫いとりをする</td></tr>
<tr><td colspan="4">24 日までの宿題として，刺し子を完成させる</td></tr>
<tr><td>5　6</td><td>9 月 19 日</td><td rowspan="4">T1: 学級担任
T2: 松永</td><td>◯エプロン布の裁断</td></tr>
<tr><td>7　8</td><td>9 月 24 日</td><td rowspan="3">◯エプロン製作（ミシン）
※ポケットの縫いとりが終わってない児童は，この時間に製作を行った。</td></tr>
<tr><td>9　10</td><td>9 月 25 日</td></tr>
<tr><td>11　12　13</td><td>9 月 26 日</td></tr>
<tr><td>14</td><td>9 月 27 日
（実地授業Ⅳ）</td><td>T1: 松浦
T2: 学級担任</td><td>◯事後アンケート調査
◯事後実技テスト</td></tr>
</table>

6 年生を対象とした授業実践の概要については，表 1 に示す.

3. 結果及び考察

3-1　アンケート調査の結果及び考察

(1) 手縫いに関する興味・関心・意欲

表 2 に示す通り，「手縫いで何かを作ることに自信がある」の設問において，「とてもそう思う」と回答した児童は 21.9%，「ややそう思う」42.5%，あわせて 64.4% の児童が「そう思う」（以下「とてもそう思う」「ややそう思う」をあわせた回答を「そう思う」，「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」をあわせた回答を「そう思わない」と記述する.）と答えている．学年別では，5 年生の 72.5％が「そう思う」と答えているのに対して，6 年生は 54.5％と大きく低下している．5 年生は，1 学期に手縫いでの製作を行っており，直後に調査を行ったため，自信を持っている児童が多いと考えられる．しかし，6 年生は 1 年間授業では経験していないことで，自信を無くしているものと考えられる.

「手縫いで小物を作ることは，おもしろい」の設問においては，「とてもそう思う」53.4%，「ややそう思う」26.0% で，79.4% の児童が「そう思う」と答えている．学年別では，5 年生の 87.5% が「そう思う」と答えており，6 年生は 69.7% であった．児童は，手縫いで製作することへの興味・関心は高いと推察する.

「手縫いでぬうことはめんどうくさい」の設問においては，「まったくそう思わない」38.4%，「あまりそう思わない」35.6% で，74.0% の児童が「そう思わない」と答えている．学年別では，5 年生の 85% が「そう思わない」と答えているのに対し，6 年生では，60.6％であった．6 年生は 5 年生でミシン縫いを経験しており，手縫いより早く縫うことができるミシンの方がいいと思う児童もいるのではないだろうか.

「もっと上手にぬうことができるようになりたい」の設問においては，「とてもそう思う」65.8%，「ややそう思う」23.3% で，89.1% の児童が「そう思う」と答えている．学年別では，5 年生では 95.0% の児童が「そう思う」と答えているのに対し，6 年生では，81.8% で，学年が上がるにつれ，手縫い技能の習得に対する意欲がやや低下している.

「もっと難しいものをぬって作ることにちょうせんしたい」の設問においては，「とてもそう思う」49.3%，「ややそう思う」24.7% で，74.0% の児童が「そう思う」と答えている．学年別では，5 年生の 85.0% が「そう思う」と答えているのに対し，6 年生では 60.6％と大きく低下していた．1 年間のブランクがあることで，製作に対する意欲や自信を無くしているのではないだろうか.

「ぬうことは，練習したらもっと上手になると思う」の設問は，「とてもそう思う」57.5%，「ややそう思う」31.5% で，89.0% の児童が「そう思う」と答えている．また，「まったくそう思わない」と答えた児童はおらず，練習すれば上手になるとの認識を持っていると考えられる.

「苦労して作品が出来上がったときはうれしい」の設問においては，「とてもそう思う」80.6%，「ややそう思う」15.3% で，95.9% の児童が「そう思う」と答えており，「まったくそう思わない」と答えた児童は

表 2　裁縫に関する興味・関心・意欲　　5 年（n= 40）　6 年（n= 33）

		まったく そう思わない	あまり そう思わない	やや そう思う	とても そう思う
手ぬいで何かを作ることに自信がある	5 年	3（7.5%）	8（20.0%）	21（52.5%）	8（20.0%）
	6 年	7（21.2%）	8（24.2%）	10（30.3%）	8（24.2%）
	合計	10（13.7%）	16（21.9%）	31（42.5%）	16（21.9%）
手ぬいで小物を作ることは，おもしろい	5 年	1（2.5%）	4（10.0%）	12（30.0%）	23（57.5%）
	6 年	3（9.1%）	7（21.2%）	7（21.2%）	16（48.5%）
	合計	4（5.5%）	11（15.1%）	19（26.0%）	39（53.4%）
手ぬいでぬうことはめんどうくさい。	5 年	19（47.5%）	15（37.5%）	6（15.0%）	0（0.0%）
	6 年	9（27.3%）	11（33.3%）	10（30.3%）	3（9.1%）
	合計	28（38.4%）	26（35.6%）	16（21.9%）	3（4.1%）
もっと上手にぬうことができるようになりたい	5 年	1（2.5%）	1（2.5%）	11（27.5%）	27（67.5%）
	6 年	0（0.0%）	6（18.2%）	6（18.2%）	21（63.6%）
	合計	1（1.4%）	7（9.6%）	17（23.3%）	48（65.8%）
もっと難しいものをぬって作ることにちょうせんしたい	5 年	1（2.5%）	5（12.5%）	12（30.0%）	22（55.0%）
	6 年	3（9.1%）	10（30.3%）	6（18.2%）	14（42.4%）
	合計	4（5.5%）	15（20.5%）	18（24.7%）	36（49.3%）
ぬうことは，練習したらもっと上手になると思う	5 年	0（0.0%）	3（7.5%）	14（35.0%）	23（57.5%）
	6 年	0（0.0%）	5（15.2%）	9（27.3%）	19（57.6%）
	合計	0（0.0%）	8（11.0%）	23（31.5%）	42（57.5%）
苦労して作品が出来上がったときはうれしい。	5 年	0（0.0%）	0（0.0%）	8（20.0%）	32（80.0%）
	6 年	0（0.0%）	3（9.4%）	3（9.4%）	26（81.3%）
	合計	0（0.0%）	3（4.2%）	11（15.3%）	58（80.6%）

いなかった．作品が完成することは児童にとっては嬉しいことであり，達成感に繋がっているものと推察する．

以上のことから，1 学期に手縫いでの作品を作ったばかりの 5 年生は，手縫いに自信があり，被服製作への興味・関心・意欲が高いが，6 年生においては自信をなくしている児童がおり，「できる」と思えないことで興味・関心・意欲を失いつつあると考えられる．

(2) 手縫いの技能に関する自信について

表 3 に示す通り，「きれいに玉結びを作る事ができる」の設問については，「とてもよくできる」35.6%，「すこしできる」50.7%，あわせて 86.3% の児童が「できる」（以下「とてもよくできる」「少しできる」をあわせた回答を「できる」，「あまりできない」「まったくできない」をあわせた回答を「できない」と記述する．）と答えていた．学年別ではほとんど差が見られず，玉結びに関して自信のある児童が多いことが分かった．

「きれいに玉どめを作ることができる」の設問においては，「とてもよくできる」32.9%，「すこしできる」46.6% で，79.5% の児童が「できる」と答えているが，玉結びに比べるとやや低下している．

「ぬい目をそろえてまっすぐに並ぬいができる」の設問においては，「とてもよくできる」32.9%，「すこしできる」49.3% で，82.2% の児童が「できる」と答えている．学年別では，「とてもよくできる」と答えた児童は，5 年生の方が 6 年生より 10％程度多く，手縫いによる製作を経験して間がないことが影響していると推察される．

「ぬい目をそろえてまっすぐに半返しぬいができる」の設問は，「とてもよくできる」20.5%，「すこしできる」53.4% で，73.9% の児童が「できる」と答えている．学年別では，5 年生は 80% の児童が「できる」と答えており，さらに，27.5% の児童は「とてもよくできる」と答えているのに対し，6 年生は「できる」が 67.6% で，「とてもよくできる」と答えている児童も 12.1％と半減している．半返しぬいは並みぬいに比べて難易度が高いことから，影響がより大きいのではないかと考えられる．

「ぬい目をそろえてまっすぐに本返しぬいができる」の設問は，「とてもよくできる」21.9%，「すこしできる」50.7 で %，72.6% の児童が「できる」と答えている．学年別では，5 年生は 77.5% の児童が「できる」と答えており，さらに 30% の児童は「とてもよくできる」と答えているのに対し，6 年生では「できる」が 66.6% で，「とてもよくできる」と答えた児童も 12.1％と大きく低下していた．半返し縫いと同様に，難易度の高さが関連しているものと思われる．

表3　裁縫の技能に関する自信　　5年（n=40）　6年（n=33）

		まったく できない	あまり できない	すこし できる	とてもよく できる
きれいに玉結びを作ることができる	5年	2（5.0%）	3（7.5%）	21（52.5%）	14（35.0%）
	6年	2（6.1%）	3（9.1%）	16（48.5%）	12（36.4%）
	合計	4（5.5%）	6（8.2%）	37（50.7%）	26（35.6%）
きれいに玉どめを作ることができる	5年	3（7.5%）	6（15.0%）	18（45.0%）	13（32.5%）
	6年	2（6.1%）	4（12.1%）	16（48.5%）	11（33.3%）
	合計	5（6.8%）	10（13.7%）	34（46.6%）	24（32.9%）
ぬい目をそろえてまっすぐに並ぬいができる	5年	1（2.5%）	6（15.0%）	16（45.0%）	15（37.5%）
	6年	0（0.0%）	6（18.2%）	18（54.5%）	9（27.3%）
	合計	1（1.4%）	12（16.4%）	36（49.3%）	24（32.9%）
ぬい目をそろえてまっすぐに半返しぬいができる	5年	3（7.5%）	5（12.5%）	21（52.5%）	11（27.5%）
	6年	1（3.0%）	10（30.3%）	18（54.5%）	4（12.1%）
	合計	4（5.5%）	15（20.5%）	39（53.4%）	15（20.5%）
ぬい目をそろえてまっすぐに本返しぬいができる	5年	4（10.0%）	5（12.5%）	19（47.5%）	12（30.0%）
	6年	1（3.0%）	10（30.3%）	18（54.5%）	4（12.1%）
	合計	5（6.8%）	15（20.5%）	37（50.7%）	16（21.9%）
きれいにボタンをつけることができる	5年	2（5.0%）	8（20.0%）	13（32.5%）	17（42.5%）
	6年	3（9.1%）	7（21.2%）	10（30.3%）	13（39.4%）
	合計	5（6.8%）	15（20.5%）	23（31.5%）	30（41.1%）

「きれいにボタンをつけることができる」の設問においては,「とてもよくできる」41.1%,「すこしできる」31.5%で，72.6%の児童が「できる」と答えている．学年による差は，ほとんど見られなかった．

以上の結果より，児童は，玉結び，玉どめ，並縫いに関しては，製作から時間が経過しても「できる」という自信を持っているが，半返し縫い，本返し縫いに関しては，自信が薄れる傾向にあることがわかった．難しいからこそ繰り返し練習する必要があり，それが技能の向上や自信にもつなげられるのではないかと考える．

(3) 日常生活での体験

表4に示す通り,「あなたは，家の手伝いをしますか？」の設問においては，84.9%の児童が「はい」と答えており，学年別では5年生で87.5%，6年生で81.8%が家庭での手伝いをしていた．手伝いの内容（自由記述・複数回答）を,「衣」「食」「住」「家族」の4分野に分け，図1・2に示した．項目数では,「衣」分野に関する内容が5年生で3項目，6年生で4項目,「食」分野に関する内容が5年生で5項目，6年生で4項目,「住」分野に関する内容が5年生で7項目，6年生で7項目,「家族」に関する内容が5年生・6年生で2項目あり,「衣」分野は食や住分野よりも項目数が少ないことが分かった．自由記述の複数回答ではあったが，度数は少なく，1人あたり2項目程度の記入であった．「裁縫」と答えた児童は5年生で1名，6年生で2名と少数であった．

「家庭科の時間以外で，布を使った小物を作ったことがありますか？」（表4）という設問においては，68.5%の児童が「はい」と答えており，学年別では5年生で62.5%，6年生で75.8%と学年が上がるにつれてやや増加していた．「はい」と答えた児童にその内容を尋ねたところ，全部で20項目が挙げられた．上位5項目は，小物入れ（13人），ポケットティッシュカバー（9人），手提げ袋（9人），雑巾（8人），きんちゃく（7人）であった．5年生では，夏休みに雑巾を縫う宿題がだされていた．また，6年生では，今まで授業で習った内容を家庭で実践し2学期に発表するという課題が出されており，布で小物を作ったという発表も見られた．これらの課題によって,「はい」の割合が増えたものと推察される．「いいえ」と答えた児童の理由としては,「めんどうだから」「作る時間

表4　日常生活での体験　　5年（n=40）　6年（n=33）

		はい	いいえ
あなたは，家の手伝いをしますか？	5年	35（87.5%）	5（12.5%）
	6年	27（81.8%）	6（18.2%）
	合計	62（84.9%）	11（15.1%）
家庭科の時間以外で，布を使った小物を作ったことがありますか？	5年	25（62.5%）	15（37.5%）
	6年	25（75.8%）	8（24.2%）
	合計	50（68.5%）	23（31.5%）
裁縫道具を家で使うことがありますか？	5年	23（57.5%）	17（42.5%）
	6年	18（54.5%）	15（45.5%）
	合計	41（56.2%）	32（43.8%）

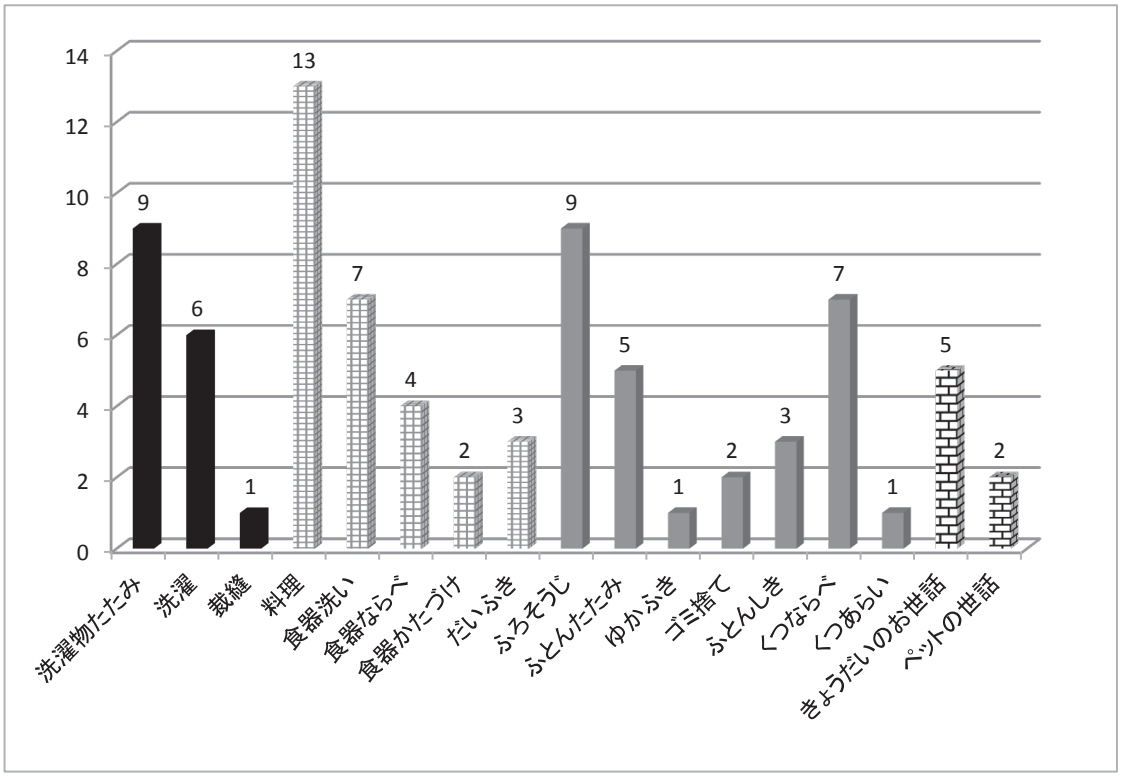

図1　家の手伝いの内容５年（n＝40，複数回答）

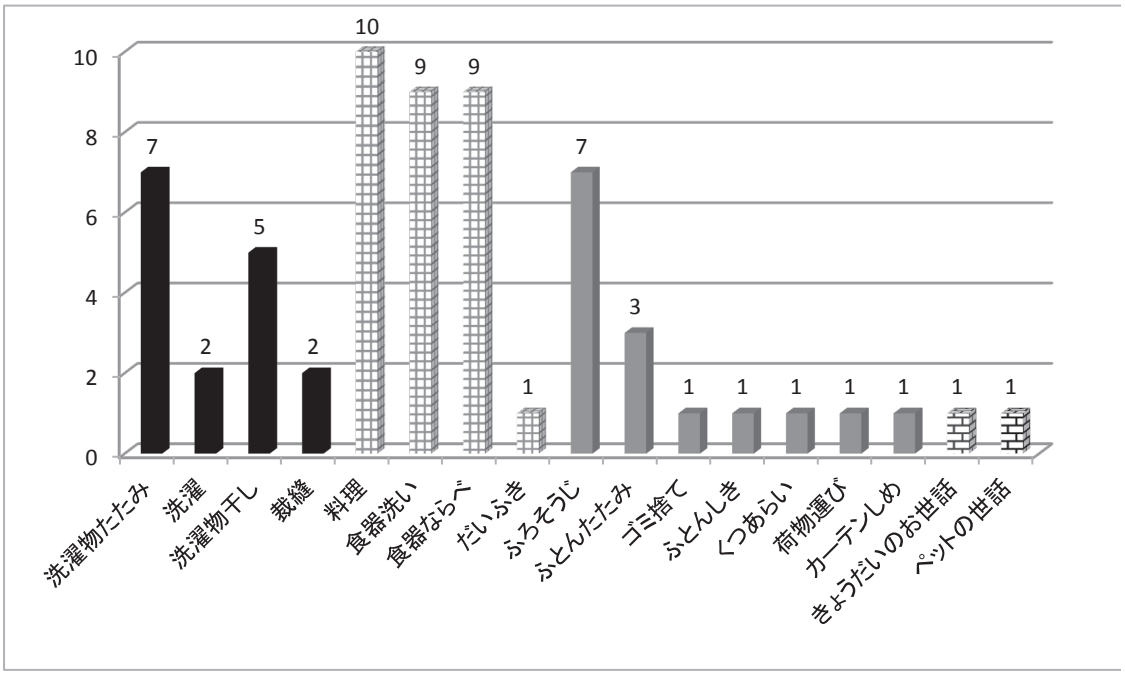

図2　家の手伝いの内容６年　（n＝33，複数回答）

があまりないから」「布を使うことがむずかしいから」「上手に作ることができないから」「作らなくてもいいから」という理由があげられていた．

「裁縫道具を家で使うことがありますか？」という設問においては，56.2% の児童が「はい」と答えており，5 年生では 57.5%，6 年生では 54.5% で差はほとんどみられなかった．「どのような時に使うか」という問いには，「何か小物をつくるとき」「雑巾を縫うとき」が多かった．また，補修に使っている児童もおり，「体操服のゼッケンがとれかけた時」「帽子のゴムが切れた時」「靴下が破れた時」「ボタンがとれた時」という回答が見られた．

以上の結果より，児童は，お手伝いとして裁縫をすることは少ないが，夏休みの課題などを契機として，さまざまな製作を家庭で行っていることがわかった．一方で，「めんどうくさい」「むずかしいから」という理由で家庭での実践が少ない児童に対する指導の工夫が重要であると示唆された．

3-2　6年生に対する授業前・後のアンケート調査結果と考察

先に表1で示した通り，6年生に対しては，ミシン縫いの題材である「エプロン」の指導において，ポケット部分に刺し子で縫い取りをさせる指導計画とした．また，実技テストも課した．そのことで，手縫いに関する興味・関心・意欲」や「手縫いの技能に関する自信」について，事前アンケート（以下，「事前」とする）と事後アンケート（以下，「事後」とする）でどのような変化がみられたのか考察する．

(1) 手縫い関する興味・関心・意欲

手縫い関する興味・関心・意欲の項目について，表5に示す．

「手縫いで何かを作ることに自信がある」の設問においては，事前では，54.5%の児童が「そう思う」と答えていたが，事後では48.5%と若干の減少がみられた．しかし，事前では21.2%の児童が「まったくそう思わない」と答えていたが，事後は6.1%に減少していた．

「手縫いで小物を作ることは，おもしろい」の設問においては，事前では，69.7%の児童が「そう思う」と答えているが，事後では87.9%と大きく増加した．

「手縫いでぬうことはめんどうくさい」の設問においては，事前では39.4%の児童が「そう思う」と答えていたが，事後では27.3%と減少しており，意欲の低い児童に対して一定の効果があったと推察する．

「もっと上手にぬうことができるようになりたい」の設問においては，事前と事後でほとんど変化がみられなかった．

「もっと難しいものをぬって作ることにちょうせんしたい」の設問においては，事前では60.6%の児童が「そう思う」と答えていた，事後では66.7%と若干の増加が見られた．

「ぬうことは，練習したらもっと上手になると思う」の設問においては，事前と事後ともに，84.9%の児童が「そう思う」と答えており変化がみられなかった．しかし，事後で「まったくそう思わない」と答えた児童がいることが分かった．達成感が低い児童に対する個別指導の工夫が課題である．

「苦労して作品が出来上がったときはうれしい」の設問においては，事前と事後どちらとも，ほぼ全員が「とてもそう思う」と答えている．作り上げた時の達成感は，児童に大きな喜びを与え，意欲の向上につながるものと考えられる．

(2) 手縫いの技能に関する自信について

手縫いの技能に関する自信の項目について表6に示す．

「きれいに玉結びを作ることができる」の設問において，事前では84.9%の児童が「できる」と答えていたが，事後では94.0%に増加していた．また，事後では「まったくできない」と答えた児童はおらず，

表5　裁縫に関する興味・関心・意欲（事前・事後）　　6年（n＝33）

		まったく そう思わない	あまり そう思わない	やや そう思う	とても そう思う
手ぬいで何かを作ることに自信がある	事前	7（21.2%）	8（24.2%）	10（30.3%）	8（24.2%）
	事後	2（6.1%）	15（45.5%）	10（30.3%）	6（18.2%）
手ぬいで小物を作ることは，おもしろい	事前	3（9.1%）	7（21.2%）	7（21.2%）	16（48.5%）
	事後	1（3.0%）	3（9.1%）	15（45.5%）	14（42.4%）
手ぬいでぬうことはめんどうくさい。	事前	9（27.3%）	11（33.3%）	10（30.3%）	3（9.1%）
	事後	5（15.2%）	19（57.6%）	6（18.2%）	3（9.1%）
もっと上手にぬうことができるようになりたい	事前	0（0.0%）	6（18.2%）	6（18.2%）	21（63.6%）
	事後	1（3.0%）	5（15.2%）	7（21.2%）	20（60.6%）
もっと難しいものをぬって作ることにちょうせんしたい	事前	3（9.1%）	10（30.3%）	6（18.2%）	14（42.4%）
	事後	3（9.1%）	8（24.2%）	10（30.3%）	12（36.4%）
ぬうことは，練習したらもっと上手になると思う	事前	0（0.0%）	5（15.2%）	9（27.3%）	19（57.6%）
	事後	1（3.0%）	4（12.1%）	8（24.2%）	20（60.6%）
苦労して作品が出来上がったときはうれしい。　注	事前	0（0.0%）	3（9.4%）	3（9.4%）	26（81.3%）
	事後	0（0.0%）	2（6.1%）	3（9.1%）	28（84.8%）

注：この項目のみ事前のn＝32

表6　裁縫の技能に関する自信（事前・事後）　6年（n＝33）

		まったく できない	あまり できない	すこし できる	とてもよく できる
きれいに玉結びを作ることができる	事前	2（6.1%）	3（9.1%）	16（48.5%）	12（36.4%）
	事後	0（0.0%）	2（6.1%）	16（48.5%）	15（45.5%）
きれいに玉どめを作ることができる	事前	2（6.1%）	4（12.1%）	16（48.5 %）)	11（33.3%）
	事後	0（0.0%）	6（18.2%）	14（42.4%）	13（39.4%）
ぬい目をそろえてまっすぐに並ぬいができる	事前	0（0.0%）	6（18.2%）	18（54.5%）	9（27.3%）
	事後	0（0.0%）	6（18.2%）	17（51.5%）	10（30.3%）
ぬい目をそろえてまっすぐに半返しぬいができる	事前	1（3.0%）	10（31.3%）	18（54.5%）	4（12.1%）
	事後	1（3.0%）	10（30.3%）	11（33.3%）	11（33.3%）
ぬい目をそろえてまっすぐに本返しぬいができる	事前	1（3.0%）	10（30.3%）	18（54.5%）	4（12.1%）
	事後	1（3.0%）	10（30.3%）	12（36.4%）	10（30.3%）
きれいにボタンをつけることができる	事前	3（9.1%）	7（21.2%）	10（30.3%）	13（39.4%）
	事後	1（3.0%）	12（36.4%）	10（30.3%）	10（30.3%）

ほぼ全員玉結びができるようになっているといえる．

「きれいに玉どめを作ることができる」の設問においては，事前・事後ともに81.8％の児童が「できる」と答えているが,「とてもよくできる」と答えた児童は，事前で33.3％，事後は39.4％とやや増加した．「まったくできない」と答えた児童は，事後ではおらず，ほぼ全員玉どめができるようになっているといえる．

「ぬい目をそろえてまっすぐに並ぬいができる」の設問においては，事前，事後でほとんど変化がなかった．

「ぬい目をそろえてまっすぐに半返しぬいができる」の設問は，事前，事後ともに66.6%の児童が「できる」と答えていたが,「とてもよくできる」と答えた児童は，事前では12.1%，事後は33.3%と大きく増加しており，自信をつけることができたといえる．しかし,「できない」とする児童の割合に変化がなかったことは課題である．

「ぬい目をそろえてまっすぐに本返しぬいができる」の設問も，事前，事後ともに66.6%の児童が「できる」と答えている．「とてもよくできる」と答えた児童は，事前では12.1%，事後は30.3%と大きく増加しており，自信をつけることができたと言える．しかし，半返しぬいと同様に,「できない」の割合が変化していないことから，難易度の高い技能の指導法について，更なる改善が必要であると考える．

「きれいにボタンをつけることができる」の設問においては，事前では，69.7%の児童が「できる」と答えているが，事後は60.6%と低下していた．

さらに,「あまりできない」と答える児童が事前では21.2%，事後は36.4%と増加した．今回の授業実践ではボタンつけを取り上げなかったので，自信が持てなかった可能性が考えられる．

以上の結果より，今回の製作で繰り返し練習した技能に関しては,「できる」と思う児童の数が増加していた．小学校段階で手縫いの技能を定着させ，日常生活において活用できるようにするためには，5年の題材で一度取り上げただけでは不十分で，6年のミシン縫いの題材において部分的に取り入れることにより，児童に自信を持たせることができると考えられる．

4. 要約

本研究では，少ない指導時間でも手縫いの技能を定着させる指導方法を検討することを目的として，児童の被服製作に関する意識と行動の実態調査を行った．その結果，以下の事が明らかとなった．

(1) 事前アンケート調査

事前アンケート調査の結果，5年生は，手縫いに関して興味・関心・意欲が高く，技能に自信がある児童が多かった．しかし，6年生は，5年生に比べて興味・関心・意欲が低く，技能に自信がない児童の割合が多かった．また，玉結び，玉どめ，並縫いに関しては，学年による差はあまり見られなかったが,半返し縫い，本返し縫いに関しては，6年生の方が「できる」と思う児童が少なかった．5年生は1学期に手縫いを学習してから間もない時期であったことや，夏休みに手縫いによる製作課題が出されていたため，反復練習ができていたと考えられる．しかし，6年生は，授業において1年間手縫いを全く取り扱っていないことが影響しているのではないかと考えられる．この結果より，6年生でも手縫いを取り入れた作品づくりを行う必要性があることが検証された．

(2) 6年生に対する事後アンケート調査の結果,「手縫いは面白い」「手縫いは面倒ではない」と思った児

童が増え，手縫いによる縫いとりを行ったことで，児童の興味・関心・意欲を高めることが出来たと考えられる．また，玉結び，玉どめ，並縫いに関しては，事前アンケートよりも「とてもよくできる」と答える児童の割合が増えていた．さらに，5 年生との差が見られた半返し縫い，本返し縫いに関しても，「とてもよくできる」と答えた児童が増加した．しかし，今回の授業で取り上げなかった「ボタンつけ」に関しては「できない」と思う児童が増えていた．この結果より，何度も繰り返し練習することが，児童の自信の有無に大きく影響するのではないかと考えられる．

参考文献

高木直（2004）．被服製作実習の学習意義と課題．市民が育つ家庭科．大学家庭科教育研究会編．ドメス出版．pp.125 ～ 135.

（社）日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会回収分別分科会編（2011），循環型社会と繊維～衣料品リサイクルの現在，過去，未来～，pp.20，27.

文部科学省（2008）．小学校学習指導要領解説 家庭編，東洋出版社.